

壊れた王朝 (1列王 11:30-36)

夢は必ずかなうから、あきらめないでとよく言われますが、ほんとうに夢がかなう人は、ほんの一握りで、ほとんどの場合、夢は夢で終わってしまいます。たとえ、夢がかなうとしても、本人にも他の人にも良いことばかりではありません。私たちは、なにが本当の夢なのか、また、どこに本当の希望があるのかを問いかけるべきでしょう。イスラエル王朝の歴史を通して、そのことについて確認しましょう。

まず知るべきなのは、**福音を無視した人の理想は、実現不可能な夢に過ぎず、大きな失望に終わります**。神様を離れている人が自分なりに理想を掲げてがんばります。そのような福音を無視した理想は、創世記 3章からはじまったことです。アダムにサタン(悪魔)がやってきて、神様を無視して「神のようになる」と誘惑しました。その理想を持って実をとって食べたところ、理想とはまったくちがう結果になってしまいました。そして、神様を無視して、理想を掲げてがんばるくせは人間からは抜けません。力を合わせて技術を磨いてバベル塔を建て、天の頂に届くようにすれば、ユートピアが作れるという理想を持ってがんばりましたが、それはこなごなに砕かれました。16世紀には、ルネサンスと産業革命が起き、神様の教えはいらず、自分を磨き内側を啓蒙するなら、よりよい世界が作れると理想を掲げたのですが、その結果は第一次、第二次世界大戦が起こりました。そのあと、貧富の差が大きくなったので、国がすべてを所有してみんなに平等に分配すればよいという理想を掲げて共産主義ができました。その結果、理想を実現するために独裁国家になってしまいました。これが、人類の歴史です。

このことは、イスラエルの王朝の歴史からも見ることが出来ます。神様ご自身が王であるのに、イ

スラエルの人々は、他の国々のように王がいたらより良い国になると理想を掲げて、王を立ててほしいと訴えました。そのように福音を無視して理想を掲げて王国が生まれたのです。最初の王はサウルでした。ダビデは、神様を王として、みこころにかなう者だと言われたのですが、ソロモンの代から王朝は壊れはじめ、ソロモンののち、南北の2つに分裂してしまいます。福音を無視して理想を掲げると、限界にぶつかります。そこで、理想を実現するために、偶像に頼り崇拜するようになり、結局は、偶像だらけの歴史となったのです。どんなに理想を掲げてがんばっても、まわりの国からはやられるしかない歴史となり、大事な神殿も聖なる物もすべて奪われ、破壊され、捕虜となって、植民地になったのがイスラエルの歴史です。これが人間が福音を無視して理想を掲げた結果です。人間がどんなにがんばっても、限界にぶつかり、大きな失望に終わることをしっかりと心に留めましょう。

人間には分からない霊的問題があり、神様を失い、悪魔に支配され、どんなに頑張ってもろいの運命からは出られない、解決不可能な根本問題があるので、失望を繰り返すしかないのです。霊的問題がわかるなら、キリストだけが希望だとわかります。そして、**神様は福音を愛し、尊重する者である切り株を通して絶望の世を生かされま**す。神様は、契約をまっとうされる愛の神様なのです。その代表的なみことばが、イザヤ 6章 13節です。福音を愛し尊重するということは、神様が約束してくださったキリストしか希望はないと、ただキリストを告白することです。身分や職業と関係なく、生きる理由は福音宣教だとわかり、福音宣教こそが最高の価値あることだと、all in することです。そのような人が残された者であり、海の

砂の一粒のようであっても、その残された者を通して神様は人類を救う約束を全うされます。

イスラエル王朝の歴史を見ながら、世の現象を見て、うらやむこと、失望すること、どんなことがあっても恐れることもなく、よりキリストにのめりこみ、キリストを愛する切り株であることにフォーカスを合わせましょう。聖書にある切り株は、人間的に見ると、さまざまな条件の人々です。しかし、そのような人間の条件とは関係なく、福音を愛するならば、神様がその人を世の希望とされ、神様の計画を成し遂げられたことを見ることが出来ます。それがマタイからヨハネの福音書にまで書かれている内容です。条件はいつさい気にしないで、ただ only イエスかどうかに目を向けましょう。そして、only イエスである自分は、時代のための切り株であることを確認しましょう。聖書において切り株は、いろいろな分野で用いられました。私たちひとりひとりに、備えられた所があります。

この世がどう変わっても、どんなにがんばっても、一瞬でこなごなになってしまうことを歴史を通して知り、福音を無視する者は失望に終わることを確認しましょう。そして、その歴史の中で、切り株を通して神様が愛の計画をまっとうされたことを確認しましょう。そして、**いま、神様が自分を召しておられる「召命」の御声を聞きましょう**。いま、悩んでいるテーマはなんでしょうか。そのテーマより福音を正しく知ることを最優先にしましょう。どんなことがあっても、さておいて、まず福音を優先して集中しましょう。ほかのテーマは、どんなにがんば

ばっても失望に終わります。環境も条件も人の評価も無視して、イエス・キリストを信じたという条件で、自分は残された者、切り株、レムナントだと確信しましょう。現場で、不平不満、落胆に陥ることなく、なににも引っかけからず、捕らわれず、「それゆえ、私がここに遣わされた」と、召命にフォーカスを移しましょう。そうでないと、悪魔が喜びます。悪魔を喜ばせない方法は、自分の考えを捨てて、みことばに集中して、感情や世の法則より、福音の契約を握ることです。レムナントは特にメッセージを握って真剣に問いかけてみましょう。どこに福音が必要かと問いかけていると、自分だけに浮かび上がる分野が出て来ます。レムナントひとりひとりに計画があるので、それぞれに神様が与えてくださる分野があります。そこで、メッセージを握って、この世や現場、自分の流れにだまされなくて、自分が切り株として召されたという召命意識をもって福音にフォーカスを合わせましょう。そのように、どこに福音が必要かと問いかけること自体が成功であり、神様からの答えは 100 年の祝福となります。それが勝利の人生です。自分に浮かび上がる分野に福音を伝えるために、堂々と歩み、どんなことも福音を伝えることにフォーカスを合わせていると、すべてを働かせて益とされる勝利のかけこい人生となります。福音を愛し、伝え、フォーカスを合わせ、神様からの召命の御声を聞いて歩むようにお祈りします。

1部-I列王記 11:30-36 壊れた王朝

なるほど/福音を無視した人の理想は失望に終わり、神様は福音を尊重する切り株を通して失望の世を生かせる。

ならば/福音を知ること優先し集中しよう。世をつぶやかず神様の召命の声を聞こう。

2部-Eペソ 1:3 祈り集中

なるほど/祈りは唯一性を味わうことで、集中により唯一性の刻印と根、体質の答えを見る。ならば/癒しとサミットの結果を見据えて目に見えない力による勝利を期待しよう。